

## 丹沢山地南部に位置する珍しい名の山 シダンゴ山

実施日 2018年2月4日(日)

天候 曇り/晴れ

リーダー 渋谷 京子

参加者 涌井良明、山崎富美恵、白石恵美子、石附智江、渋谷賢寿、渋谷京子、遠井謙策、中村友子、伊藤久雄、石原勝正、峯川弘子、宮崎敏男、阿部一郎、橋口美鈴 計14名

費用 小田急線1,544円(新宿起算)

☎980円 計2,524円

タイム 田代向BS(10:00~10:10)分岐(10:40)宮地山(11:05~11:10)分岐(11:15)シダンゴ山分岐(12:10)シダンゴ山(12:30~13:05)寄BS(14:10)

この冬、日本列島は強烈な寒波が度々襲い、大雪と強風がもたらした被害は大きいようだ。

関東地方も二週間前の降雪が異常低温の為なかなか溶けず、氷をかく光景があちこちで見られた。二日前にも少し雪が降ったので観光課に問い合わせ、アイゼン必携で当日を迎えた。



新松田駅の「寄」行きバス停に集合、メンバー14名はバスに揺られ田代向BSに

降り立った。

時折陽も差し無風、絶好の登山日和のなか身支度を整え舗道を歩き出す。橋を渡ると右に小さなトイレが

ある。右折し直進、登山口への道が二手に分かれていて近道と思われる方に進む。

集落の坂道を上って行くともう一方の道と合流、標識に従い暫く進むと宮地山登山口である。



雑木林の中ゆっくりと高度を上げて行く。森から放たれた澄んだ空気を胸いっぱい吸う。

20分程で宮地山、山頂は草原状に広がり標識が無ければ気付かず通り過ぎてしまいそうだ。

少し戻りシカ避けのフェンスを右に雪に覆われた道を行くと「寄」への分岐、いよいよシダンゴ山への登りが始まる。殆どシャーベット状で滑り易く気が抜けない。凍ってはいないのでアイゼンは着けず一步一步集中して頂上を目指す。



高圧線の鉄塔下を歩きシダンゴ山の分岐へ、上から降りてきた登山者がアイゼンを外している。やはり下りは用心しないと！



雪の纏わり付く木段を滑らないよう慎重に登って行く。男坂、女坂と





分かれ当然前者へ。じわじわ汗のかく頃アセビの群落が目に入る。いよいよ山頂

に到着。

なんと珍しい！広い山頂はアセビに囲まれていた。展望は素晴らしく鍋割山、塔ノ岳、蛭ヶ岳等樹林と雪のコントラストが美しい。残念、富士の姿は見逃してしまった。



さあランチタイム、日差しの降りそそぐ中思い思い場所取りが始まる。ヌードルの熱々スープが汗冷え



の身体に染み渡る。

記念写真後、下山の準備をしてシダゴ山に別れを告

げる。アイゼン着けるか？迷ったが状況に応じて・・・と云う事で出発。

雪はあるもののさほど滑る感じはない。トレースを避け樹林帯の方がかえって歩



き易い。高度が下がると泥んこ道になり閉口する。

更に緩やかな道を進むとシカ避けの柵があり、しっかり締めて舗道の里山歩きが始まる。かなりの急坂に大腿四頭筋が悲鳴をあげる。



さてロウバイ、ロウバイは？下って行くと右手にトイレが、その先に黄色い花

・・紛れもないロウバイ、しかし一本のみ香りなし。

集落を下って行くと中津川に架かる大寺橋、「寄」バス停のある自然休養村の管理センターに辿り着いた。



中にトイレ、広場で農産物など売られている。ロウバイ園があると聞いていたが場所が分からず、少し離れているようだ。バスの時間まで30分ほど思い思いに過ごし新松田駅へ向かった。

今日は冬の陽だまりと思いがけずの雪道トレッキングをお楽しみ頂けましたでしょうか？

アイゼンの出番がなかったけどこんなお得なライトハイクもたまにはいいものですね～！

又、ご一緒に・・・

(記・渋谷 京子)

(写真提供・涌井 良明)